

令和5年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第4次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組みとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和5年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・文化芸能館・ミュゼふくおかカメラ館・動物園、高岡市生涯学習センター（ホール施設）の7施設の第5次指定管理協定期間（令和4年度～令和8年度）の2年目であった。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業（文化振興事業）

4月・5月に北陸最大の音楽イベント「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演を開催。「東欧に輝く音楽 ～プラハ・ウィーン・ブダペスト～」をテーマにポーランド出身で日本各地のオーケストラと共演経験のあるピアニスト、イグナツ・リシュツキ氏によるピアノ公演のほか、田中祐子氏率いる名古屋音楽大学シンフォニックウィンズが高岡文化ホールにて高岡市出身の声楽家である森雅史氏との共演を実現。ハンガリーで設立され、世界各地で公演を行う声楽アンサンブルグループのムジコロレによるコンサートを含め全3公演を実施し音楽祭を盛り上げた。また、5月28日にはオンラインパフォーマンス高岡時空舞台、山町筋に響く四季のハーモニーの完成記念として、「Amici in TAKAOKA2023～高岡に響くハーモニー」を開催した。総合プロデュースに松井千代子氏を迎え、高岡時空舞台に出演していただいた4つの合唱団がそれぞれのステージ、そして合同合唱ステージと歌声を高岡市生涯学習センターホールに響かせた。

6月には平成6年度より継続する未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」を、市内4年生の全児童を対象に、富山県高岡文化ホールにて1日間2公演を開催した。広上淳一氏率いるオーケストラアンサンブル金沢による熱演により、本市が誇る教育普及事業として29回目を実施した。また、10月末には劇団四季による「こころの劇場」公演を市内小学校6年生児童を対象として開催。富山県高岡文化ホールにて午前・午後の2公演を行い、「エルコスの祈り」の演劇を鑑賞した。

9月末には「デュエットゥ」公演・アウトリーチ事業を、（一財）地域創造の助成を受けて開催。全国各地でその地域をイメージした楽曲を制作するデュエットゥにより、9月28日、29日に市内小学校2校（国吉義務教育学校・成美小）を訪問しアウトリーチ事業を実施した。また、9月30日には生涯学習センターホールにて本公演を開催し、アウトリーチ授業で小学生に先んじて披露し、曲のタイトルを考えてもらった高岡市をイメージした曲、「おとのまちなみ ～空からのおくりもの～」の世界初演奏を成功させた。

12月にホール拠点市民文化活動活性化事業として、地域で活動する芸能団体や伝統芸能に取り組む青少年の活動支援・発表の場の提供として「高岡青少年伝統芸能ステージ2023with 南砺平高校郷土芸能部」を開催。高岡市芸術文化団体協議会会員青少年の部をはじめ、特別ゲストとして南砺平高等学校の郷土芸能部が出演。多くの市民に地域の芸能文化に触れる機会を提供した。

2月には2年目を迎えるTakaoka Opera Project公演として高岡市出身の音楽家、森雅史氏プロデュースによる「バ스티アンとバスティエンヌ」公演を開催。1月に事前講座としてオペラの魅力を伝える講座を開催、演目もコメディタッチの親しみやすい演目を選定する等、市民がオペラという世界的な音楽文化に触れる敷居を低く設定し、小編成オーケストラによる質の高い生演奏で公演を盛り上げた。

3月には春風亭昇太、柳家花緑による落語公演を開催。著名な落語家による公演に多くの市民が高岡市生涯学習センターホールに集い、公共施設利用促進と市内の賑わい創出の一助となった。

5月、8月、3月には高岡市が所有するスタインウェイなどのフルコンサートピアノをより多くの人に触れてもらうことを目的として「コンサートピアノ体験会」を開催した。いずれも、受付開始から1週間以内には予約が埋まり、大人子供を問わず多くの市民が上質なピアノを体験した。

5年目を迎える高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニューTAKAOKAプロジェクト」事業の一つで、毎月1～3回のペースで開催する「ユニークベニュー・オン・まちなかステージ」を年間35回実施した。また、スペシャルコンサートとして全国で活躍する高岡市出身のソプラノ歌手山本有希子とジャズプレイヤーのMiwakoの公演をそれぞれ開催した。情報発信事業である文化情報誌「iku*cha」は地元企業等からの協賛を得て夏・秋・冬・春号を発行し、鋭意PRを進めた。

「どこでもステージ事業」として、市内で活躍する芸術文化団体やアーティストに出演いただき、岸渡川×雅楽の動画を制作し、YouTubeの文化創造都市高岡公式チャンネルで配信した。

「第52回高岡市芸術祭」は、高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟とともにテーマ「栄華発外(えいかはつがい)」とし、10月から11月にかけて開催した。自主事業では、7月に「夏のわくわくワークショップ」を2回、9月に「青少年わかば公演(第11回たのしい子どもおどりの会)」、9月から「おでかけ公演・講座」を計13講座、「伝統芸能文化鑑賞教室」を11月から12月に計2回開催した。

2 事務局事業（生涯学習事業）

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、「古里の自然と文化」や「歴史の謎は地形と水で解ける」「東アジアにおける金銅仏の美と技法」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力为全国に向けて発信した。

展示機能では、春の特別企画展「牧野富太郎と万葉集」では、練馬区立牧野記念庭園の協力のもと、『万葉植物図譜』の複製原画を展示し、牧野博士と『万葉集』の関わりを紹介した。秋の特別企画展「万葉植物と色の世界」では、万葉の色の世界を、館蔵の井関古都路万葉草木染めコレクションや山口千代子万葉衣装コレクションを通じて、万葉歌と共に展示した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーを開催した。学習講座は、「万葉集をよむ」・「古代への招待」と、出前講座の「はじめての万葉集」（会場 高岡市生涯学習センター）を前年度に引き続き開講し、館長講座「あそびと万葉集」・「万葉秀歌を読む」を新たに開講した。臨地研修型の講座の第10回越中万葉ウォークは、館長と研究員が講師となり、勝興寺周辺で開催した。第7回歌枕を訪うは、館長と研究員が講師となり、氷見・能登方面で開催した。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要』第34号を出版した。

観光・交流機能では、春と秋の連休に「万葉衣装体験」を開催した。勝興寺国宝指定関連事業 特別企画「万葉衣装で国宝勝興寺一万葉衣装行列一」を、令和4年に勝興寺が国宝に指定されたことを記念して開催した。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」（説明員）が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、万葉学習エリア 企画展スペースを会場とした企画展「越中国府に勤める人びと ー古代役人の一日ー」が実施され、当館の利用促進につなげた。

4 美術館事業

企画展では、3月から5月にかけて「ウィリアム・モリス 英国の風景とともに巡るデザインの軌跡」を開催した。本展は、「アーツ・アンド・クラフツ運動」を先導したことで知られるウィリアム・モリスのデザイナーとしての生涯を紐解き、壁紙や染織品、書籍、椅子など約80点に、写真家・織作峰子氏（大阪芸術大学教授）が撮影したモリスゆかりの建築物や発想の源泉を思わせる英国の風景などの写真約20点を組み合わせ、デザインの軌跡をたどる内容の展覧会となった。ウィリアム・モリスの展覧会は県内初開催であり、多くの来場者から好評を得た。

7月から8月にかけては、「魔法の美術館 アート・イン・ワンダーランド～見て触れて光と遊ぶ13の部屋～」を開催した。本展は、「手をかざす」「語りかける」といった、鑑賞者のささやかな動きに反応して光や音が発生するなど、作品が様々に変化する体験型のアート展である。期間中にはマルシェやワークショップ等も開催し、夏休み期間中ということもあり、多くの親子連れの姿が見られた。期間中の来場者数はのべ34,000人以上を記録した。

9月から10月にかけては、県内3つの美術館（南砺市立福光美術館、富山市篁牛人記念美術館、富山県水墨美術館）からの協力を得て、石崎光瑠と篁牛人という二人の県出身画家にフォーカスした「ヘテロジニアスな世界 光瑠 × 牛人」を開催した。本展では両作家の作品を対峙させ、新たな美の発見を試みるとともに、富山という土壌が育んだ二人の画家に通底する精神性について理解を深める内容となった。

定例展としては、5月から6月にかけて「第62回日本伝統工芸富山展」を開催、企画展示室3では「コレクションにみる高岡の金工・漆芸」を併催し、当館が所蔵する金工・漆芸の優品を紹介した。6月から7月にかけては「第29回高岡市民美術展」を、11月には「第52回高岡市芸術祭 高岡市美術作家連盟展」を開催した。

12月から1月にかけては、「第10回クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く 高岡市児童生徒作品展～」を開催するとともに、2023年10月に逝去された人間国宝の鑄金家・大澤光民氏を偲び、当館所蔵の作品13点を無料展示した。大澤氏は高岡市独自の教科である「ものづくりデザイン科」の学習にも貢献されていたことから、多くの子ども達に大澤氏の作品を見てもらえるよう、「クリエイティブ・たかおか」との同時開催とした。また、2月には「富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学領域 卒業・修了研究制作展-GEIBUN15」を開催するなど、引き続き美術館と学校が連携した展覧会づくりを行っている。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原画の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示では、5月31日から7周年原画展「ピンチ・トラブル・ハプニング!!」後期を、また12月1日からは生誕90周年記念藤子・F・不二雄原画展「SF（すこし ふしぎ）のエッセンス」を開催している。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「古城の桜」、「石川数正が裏切った！どうする家康？」、「国泰寺のお宝② 西郷隆盛の書簡」、「新発見！高岡築城を許可する徳川秀忠書状（前田利長宛）」、「高岡の春」（次年度5月12日まで開催予定）を順次開催した。

また、7月末から開始した特別展「浮世絵に描かれた加越能 ～佐伯コレクションの世界～」では、富山県を代表する郷土の浮世絵コレクター・佐伯孝夫氏（福岡町在住）が所蔵する浮世絵の中から、幕末に活躍した高岡戸出出身の大関（当時最高位）階ヶ嶽龍右衛門などの「相撲絵」、初代広重が伏木を描いた貴重な「風景画」のほか、源義仲や佐々成政など郷土の「人物画」を展示・紹介した。

11月から開始した企画展「富山新聞創刊100年記念 松原秀典展」では、高岡市出身のアニメーター・松原秀典氏が作画監督・キャラクターデザインを手がけた「この世界の片隅に」をはじめ、代表作でもある「サクラ大戦」、大ヒットした話題作「エヴァンゲリオン」シリーズの3作品に加え、高岡市観光大使「あみたん娘」などの原画やカラーイラストのほか、初出しの貴重なキャラクター設定資料など300点以上を展示した。

2月に開始した館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した（次年度7月7日まで開催予定）。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座（全3講）や特別展講演会（1回）、伝統産業講習会「鉄瓶のお話と手入れ方法」（1回）のほか、当館職員による古文

書講座「初めての古文書教室」(全6講)を開催した。また「呈茶の会 ー博物館の松聲庵で抹茶を楽しみませんかー」(春・秋)のほか、桜の開花時期にあわせた屋上開放イベント「古城公園展望台」を開催した。そのほか、講師・委員の派遣協力、出演、執筆、監修、制作協力なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関わる資料の収集・保存に努めた。また昨年度から引き続き、国泰寺より伝近藤勇所用当世具足および西郷隆盛書簡の寄託を受けた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の一環で、高岡市伏木地区の古文書等歴史資料の調査研究活動を行った。加えて「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査も引き続き行った。またこれまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、1,348件の資料情報をネット公開している。

6 文化芸能館事業

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用された。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用された。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当館は、クラシックカメラの保存・活用並びに写真文化の振興・発展を図り、カメラ文化の知識と理解を深める生涯学習の拠点として事業を展開している。

企画写真展事業では、4月～6月の春の季節に合わせ、若者に絶大な人気を誇る写真家・川島小鳥が「たくさんの今たち」と題し、これまでの活動を総集編的に10のシリーズでまとめた500点にも上る作品を一堂に展示した。期間中は若い世代を中心に全国からも多くの来館者で賑わい、特に2度のギャラリートークはいずれも100人を超えるなど、川島氏の純粋で透明感溢れる魅力が詰まった世界とその展示構成を楽しんだ。

6月～8月の終戦記念日を含む夏の季節に合わせ、戦後を見つめるドキュメンタリー写真家・大石芳野が「戦世をこえて」と題し、厳選した183点を国、地域、テーマ別に12のシリーズで紹介した。期間中は富山大空襲体験者の取材にも協力し、地元の新聞社やテレビ取材のほか、東京から共同通信や日経新聞社の取材を受けるなど、大石氏が届け続ける「戦争は終わらない」メッセージを多数のメディアを通して発信した。地元高校生を対象にしたトークショーをはじめ、お話し会、コンサートなどの関連催事も充実し、幅広い世代で多くの来館者に戦争とは何かを問いかけ共有する貴重な機会となった。

8月～10月の秋の季節に合わせ、世界遺産写真家・富井義夫が「珠玉の世界遺産」と題し、88ヶ国130世界遺産となる152点の作品を一堂に展示した。地球への賛歌と語る富井氏の感動そのままに、コロナ禍から解き放たれ、多くの来館者が世界遺産を巡る圧巻の世界旅行に出かけているようなワクワク感に包まれた開催となった。

11月～12月は「ふるさとの作家シリーズ」として展覧会を開催した。風景写真家として第一線で活躍する県内出身の写真家・安念余志子による、自然や心のうつろいを表現した情緒豊かな写真39点が来場者を魅了した。同展では国宝指定された勝興寺を1年の四季を通して撮り下ろした「古寺愛歌 国宝勝興寺」22点が新作として発表された。また、「フォトサークル an」の作品発表展を同時開催した。

1月～2月は歴史ある全日本写真連盟巡回展「第82回国際写真サロン」を開催し、52ヶ国9,404点から選ばれた海外作品55点、国内作品45点、U30部門6点が会場を飾った。同時に高岡市美術作家連盟写真部会員展を開催し地域の写真活動を紹介した。

教育普及事業としては2月～3月に毎年恒例となっている当館主催の全国公募展「ワンダーフォト写真展」を開催し、今年のテーマ「ときめき」のもとジュニアから一般までバラエティ豊かな265点の作品が全国から集まった。公募作品は富山県写真家協会などの地域で活躍する写真家たちの作品とあわせて展示され、地域の交流や賑わいととも誰でも「写真の楽しさ」を共有する場となった。

カメラ常設展示事業では、6月からの夏の「大石芳野展」に合わせ、「WAR and CAMERA 200～戦中戦後のカメラたち」と題し、「戦争」をテーマに全館を挙げて取り組んだ。さらに過去最多となる200点のカメラ資料を展示し常設展の充実を図った。合わせて夏休み期間には「クイズ！わくわくカメラカン」と題し、小・中学生を対象にクイズラリー形式でカメラに親しむ機会も提供した。令和6年1月～10月は「すてきなカメラデザイン展」として美しい工芸品のようなカメラからユニークなカメラまで約150点を展示し、合理性や歴史背景を踏まえながら、単なる道具としての枠を超えたカメラの魅力を紹介している。

4月には新たに年間パスポートの導入に取り組み8月末まで販売した。172件を売上げ、希望者にはメールにて情報を配信するなど大変好評を得ている。当館の新たな応援団である観点も含め、引き続き工夫と育成を図りながら継続して参りたい。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができる「ふれあい広場」の事業については、コロナ禍後、人数・時間制限を設けて実施している。制限を設けて実施しているが、来園者からは好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場及び環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、園内での繁殖に努めた。

9 高岡市生涯学習センター（ホール施設）

403席を有する劇場ホールの貸館業務を実施し、音楽公演や講演会などの生涯学習利用や、企業の研修会利用など、多くの方に利用されている。また、SNSでの情報発信を積極的に行い、高岡市生涯学習センターホールの周知に努めた。

III 評議員会に関する事項

1 審議内容

- | | |
|-------------------------------------|----|
| (1) 第25回評議員会 令和5年4月1日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第1号 理事の選任について | 可決 |
| (2) 第26回評議員会 令和5年5月31日開催 | |
| 報告第1号 令和4年度事業報告について | 承認 |
| 議案第2号 令和4年度決算の承認について | 可決 |

2 評議員の異動状況

令和5年5月4日	評議員	江沼	修	辞任(死亡)
令和5年5月12日	評議員	晒谷	和子	就任(新)
	評議員	関	永文	就任(新)
令和5年6月19日	評議員	石丸	昌之	辞任(死亡)

IV 理事会に関する事項

1 審議内容

- | | | |
|-------------|--------------------------|----|
| (1) 第61回理事会 | 令和5年4月1日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第1号 | 第25回評議員会への議案提出について | 可決 |
| (2) 第62回理事会 | 令和5年5月15日開催 | |
| 議案第2号 | 令和4年度事業報告の承認について | 可決 |
| 議案第3号 | 令和4年度決算の承認について | 可決 |
| 議案第4号 | 第26回評議員会の招集について | 可決 |
| 報告第1号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |
| (3) 第63回理事会 | 令和5年12月20日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第5号 | 令和5年度補正予算(第1号)の承認について | 可決 |
| (4) 第64回理事会 | 令和6年2月16日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第6号 | 令和5年度補正予算(第2号)の承認について | 可決 |
| (5) 第65回理事会 | 令和6年3月27日開催 | |
| 議案第7号 | 令和6年度事業計画の承認について | 可決 |
| 議案第8号 | 令和6年度予算の承認について | 可決 |
| 議案第9号 | 第27回評議員会への議案提出について | 可決 |
| 議案第10号 | 評議員選定委員(外部委員)の選任について | 可決 |
| 報告第2号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |

2 理事、監事の異動状況

- | | | | | |
|---------------|------|----|----|-------|
| (1) 令和5年4月1日 | 理事 | 藤原 | 茂樹 | 就任(新) |
| (2) 令和6年3月31日 | 専務理事 | 高野 | 武美 | 辞任 |